

事業の背景・目的

<課題と必要性>

- ・琵琶湖および周辺水域沿岸域には、多様な植物群落が生育し、数多くの動植物の生息・生育及び成長・繁殖の場となっている。
- ・しかし、オオバナミズキンバイ等の侵入・定着により動植物の生息・生育が脅かされており、これらの植物が増殖した状態を抑える緊急的対応に加え、未侵入地域での予防的な保全と、侵入地域の増殖状況からの回復・復元を目指した取り組みが必要。

<目的>

- ・駆除を実施した箇所での巡回監視を実施すると共に、群落の再生、流出等による拡散の高いリスク箇所に対し、地形条件を考慮した効果的な手法での対策の実施、また、新たに生育が発見された地域での早期駆除実施により、速やかに管理可能な状態とする。

事業の内容

<巡回・監視の実施>

- ・琵琶湖沿岸および周辺水域において、駆除済みの区域での再生を防ぎ、管理可能な状態を維持するため、定期的な循環監視を実施。

<対策の検討と試験的着手>

- ・巡回監視、生育状況調査を行いながら、併せて、
- ・「保全対象区域」の抽出と現地確認、および侵入予防の警戒体制や、侵入防止施設の構造・設置方法の検討と試験的着手
- ・琵琶湖岸および周辺の河川、水路、農地等への再生・侵入に対する早期発見・迅速対応。多様な主体への普及啓発、情報共有、駆除の実施。
- ・「駆除困難区域」を対象とした効果的な防除手法と残存群落からの拡散防止のための施設の構造、設置方法の検討と試験的着手

得られた成果

<成果又は進捗状況>

- ・確実な巡回監視による対応と対策の着手により、令和2年度末に協議会が対象とする（環境省直轄区域を除く）琵琶湖全体を「管理可能な状態」とし、低密度な状態を維持することができた。
- ・ヨシ帯への侵入防止施設について外来水生植物の侵入を防止する等、その効果を確認することができた。一方で、冬期の強い風波の影響により施設が損傷したことから、その構造について検討を重ねる必要がある。
- ・駆除困難地において遮光シートによる枯殺試験を3箇所で行った。条件の異なる試験地での遮光シートの確実な固定方法について今後検証していく。

<今後の展望>

- ・引き続き、手を緩めることなく管理可能な状態として低密度な状態を維持するとともに、駆除困難地の対策工の効果の検証を行っていく。
- ・得られた情報から対策マニュアルの作成に取り組み、多様な主体へ発信していく。